



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：イスラエル軍とガザの武装勢力の衝突が激化

ガザのパレスチナ武装勢力とイスラエル軍の衝突が、激化している。15日には、イスラエル人3人が死亡しており、当面、情勢は緊迫するかもしれない。

2012年にはいり、ガザからイスラエル南部へのロケット弾・迫撃砲攻撃が増加している。イスラエル軍の発表（11月13日時点）では、今年中にガザからイスラエル側に撃ち込まれたロケット弾・迫撃砲は585発（内11月の衝突で発射されたのが119発）で、その他「鋼鉄のドーム」迎撃システムで撃墜したのが110発に上る。今回の衝突激化の背景には、今月10日にガザ境界付近で、パレスチナ側の攻撃でイスラエル軍兵士4人が負傷したことがある。また13日には、ガザから離れたアシュドッドにロケット弾が着弾するなど、通常の衝突以上の事件が発生していた。

イスラエル側の報道では、軍は、大規模なガザ進攻より、武装組織の幹部を殺害することで攻撃を押しやめようと考えているようだ。イスラエル軍は、14日にハマース軍事部門イザッディーン・カッサーム旅団の最高幹部の一人アハマド・ジャアバリ司令官の乗る車をヘリで攻撃して殺害した。中東調査会のデータベースでは、ジャアバリは2002年に、多数のハマース幹部らがイスラエル軍に殺害され際に、軍事部門の責任者になった。ハマースがガザを占拠した後、一部の報道では、ガザを支配している人物とも評されている。2009年1月にイスラエル軍がガザに侵攻した際、同人の暗殺を計画したが、居場所がわからなかったとの説もある。2011年10月に実現した拘束したイスラエル軍兵士とパレスチナ人囚人との交換解放の交渉にも参加していた。

11月15日、ガザからのイスラエル南部への攻撃で、イスラエル人3人が死亡した。自国民に死者が出た以上、イスラエル軍の報復は、当面、激化する公算が高い。

評価

ガザの武装勢力によるイスラエル攻撃は、断続的に発生しており、イスラエル軍と武装勢力は、衝突と一時停戦を繰り返している。今回もエジプトがすでに仲介を開始したようだ。ガザからのロケット弾攻撃は、隣接するイスラエル南部の住民に不安感を与える以上の効果はないようだ。むしろパレスチナ側において、イスラエルを攻撃する意思と能力を、パレス

チナ人や対抗する武装組織に誇示する意味のほうが大きいようだ。ハマースが停戦に合意すると、より小さな、より過激な組織が休戦を破ることで自分の存在をアピールする動きがパターン化している。

イスラエル軍は、一定以上の被害が出た場合に反撃している。2009年に陸上部隊の大規模侵攻をやっているが、過剰な武力の行使については激しく非難されている。今回は、武装勢力幹部の殺害という小規模作戦による報復に出たようだ。15日の攻撃でイスラエル人3人が死亡しており、イスラエル側も、それ相応の報復に出ることが懸念される。

(中島主席研究員)